

～ 北見赤十字病院の様々な取組について ～

＜北見赤十字病院中長期運営方針＞

1. 患者さんに満足度の高い優しい医療を提供します。
2. 少子高齢社会を迎え将来増加が予想される疾患に適切に対応し、政策医療に積極的に取り組むとともに、地域で求められる医療サービスの充実を図ります。
3. 災害（感染症含む）への対応力を高め、被災者に寄り添った救護活動を行います。
4. 働きやすい職場作り、充実した教育・研修体制作りを進めます。
5. 経営基盤の安定を図り、高度かつ安全な機能を備えた病院作りを進めます。
6. 地域に開かれた病院を目指します。

| 項 目 | 令和5年度の取組み |
|---|---|
| 1. 患者さんに満足度の高い優しい医療を提供します | |
| 1) 患者本位の医療 | <ul style="list-style-type: none"> 患者様満足度調査結果 入院(調査人数382人(有効回答300人)) …83.9%が満足と回答。 (内訳:とても満足(48.0%)、やや満足(35.9%)) 外来(調査人数484人(有効回答297人)) …67.2%が満足と回答。 (内訳:とても満足(37.5%)、やや満足(29.7%)) |
| 2) 侵襲の少ない医療 | <ul style="list-style-type: none"> 内視鏡手術支援ロボット(ダヴィンチ)について、施設基準を既に届出済み。 ＜届出済み施設基準及び手術実施件数＞ ・膀胱悪性腫瘍手術 7件 ・肺悪性腫瘍手術 34件 ・縦隔悪性腫瘍手術 0件 ・縦隔良性腫瘍手術 4件 ・胃切除手術 7件 ・噴門側胃切除手術 2件 ・胃全摘手術 1件 ・前立腺悪性腫瘍手術 17件 ・腔式子宮全摘術 12件 ・直腸切除、切断手術 13件 以下のとおり侵襲の少ない手術を実施。 ・内視鏡手術(消化器) 936件 ・腹腔鏡手術 770件 ・胸腔鏡手術 138件 ・内視鏡手術(泌尿器) 270件 ・内視鏡手術(耳鼻咽喉科) 82件 ・関節鏡下手術 64件 ・カテーテル治療(心臓) 359件 ・カテーテル治療(脳) 55件 ・放射線治療(IMRT) 383件 ・放射線治療(SMART) 7件 |
| 3) 質の高いチーム医療 | <ul style="list-style-type: none"> ＜患者支援センターの稼働＞ ・1月電子カルテSSSI移行に伴い、入院支援システム導入、入院前支援がシステム導入により、多職種の情報共有が円滑になり業務の効率化が図られた。 ＜対象拡大連携＞ 2023.6月 産婦人科 AT・VT 2023.9月 口腔外科 プレート除去・顎骨腫瘍摘出術 2023.12月 産科 肺炎・区域切除術 ＜R5年度稼働総件数 1806件＞ 7診療科、対象バス 21種類 ○消化器内科 641件 ○外科 242件 ○頭頸部・耳鼻咽喉科 226件 ○眼科 186件 ○泌尿器科 287件 ○歯科口腔外科 179件 ○腫瘍科 45件 ＜ハートチーム委員会の活動＞ ・第5回心不全多職種研修会を開催(10/25) …ハイブリッド形式による開催。 参加者73名(会場28名、Zoom45名) |
| 4) 第三者機関による機能評価受審 | <ul style="list-style-type: none"> 機能評価受審時に「B」と評価された項目について ・1.1.5「患者の個人情報・プライバシーを適切に保護している」…R6.1よりUSBを制御するソフトウェアが稼働 ・1.5.4「倫理・安全などに配慮しながら、新たな診療・治療方法や技術を導入している」…高精度画像医療技術及び未承認新規医薬品導入前後審査システムを構築しイントラによる周知を行った。 ・4.3.2「職員の能力評価・能力開発を適切に行っている」…R5年度よりRプランによる勤務評定を開始 |
| 2. 少子高齢社会を迎え将来増加が予想される疾患に適切に対応し、政策医療に積極的に取り組むとともに、地域で求められる医療サービスの充実を図ります | |
| 1) がん・脳卒中・急性心筋梗塞・心不全・糖尿病・精神疾患・呼吸器疾患・整形外科的疾患・緩和医療・歯科診療の充実 | <ul style="list-style-type: none"> TAMI施設認定の申請に必要な経食道心エコーの件数がR5.1-12の実績を満たすことができた。 2施設申請を申請することによって承認され、R6.2に申請書提出した。 R5.6簡便機器患緩和ケアマニュアルが完成。心不全を代表とする循環器疾患の治療・ケアの充実を図る。 |
| 2) 救急医療・へき地医療・周産期医療・小児医療・精神保健対策(認知症)の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 救急搬送を積極的に受け入れ、管外の医療圏地域の患者も受け入れている。 救急車受入れ 3,561件 レポート利用件数 当院へ搬送 5件 当院より搬送 8件 |
| 3) 救命救急センターの安定維持 | <ul style="list-style-type: none"> 救命救急センター運営委員会を毎月開催し受入体制を確保している。 救命救急センター評価基準充実段階A評価を維持している。 救急病棟と救急外来の一体的運営を維持している。 |
| 4) リハビリテーション・健診体制の充実 | <ul style="list-style-type: none"> オプション検査の新規実施 ・OCT(眼底三次元画像解析) : 201件 ・アレルギー検査: 178件 令和5年度実績 ・リハビリテーション: 131,732単位 ・健康診断: 9,602件 |
| 5) 救急ワークステーションとの連携 | <ul style="list-style-type: none"> 救命救急士と連携を密にし、実習を積極的に受け入れている。 気管挿管講習等 計8名 (内訳:気管挿管 4名、ビデオ硬式挿管 4名) Dr.カー移動件数 11件 (内訳:当院に直送 2件、転院搬送 9件) |
| 6) オートワーク圏域災害拠点病院(広域救急)・網走厚生・遠軽厚生・北見赤十字)の相互連携 | <ul style="list-style-type: none"> 認知症・緩和ケア・介護等にかかる研修会への講師派遣(1件) 紹介率47.9%、逆紹介率 104.6% ファーストバス(地域連携予約)件数9,368件 R6.1～日赤道立ネットワーク(CareM11)の稼働開始 導入施設:7施設(令和6年3月31日時点) 内訳/医療機関:5、訪問看護ステーション:2) 地域医療機関等への医師等派遣 頭頸部・耳鼻咽喉科 137回 眼科 1回 内科 36回 脳神経外科 34回 形成外科 23回 呼吸器内科(道立) 46回 診療放射線科 116回 臨床検査科 7回 リハビリテーション課 6回 |
| 7) 地域への医療サービスの提供 | <ul style="list-style-type: none"> R5.6 サロマ湖100kmマラソンに医療スタッフ派遣 (医師3名、研修医2名、看護師4名、運転手1名) R5.8 北海道マラソンに医療スタッフ派遣 (医師1名、看護師2名、ロジ2名) R5.9 網走マラソンに医療スタッフ派遣 (医師4名、研修医2名、看護師3名、ロジ3名) R5.10 北見ハーフマラソンに医療スタッフ派遣 (医師1名、看護師1名) |
| 3. 災害への対応力を高め、被災者に寄り添った救護活動を行います | |
| 1) 平時の取組・人材育成 | <ul style="list-style-type: none"> R5.9 令和5年度全国赤十字救護班研修会(参加2名、スタッフ3名) R5.10 赤十字災害救護訓練(参加6名、指導者1名) R5年度 日本DMAT隊員養成(看護師1名、ロジ1名) R5.12 北海道DMAT実働訓練(医師3名、看護師3名、ロジ3名、コトロー3名) |
| 2) オートワーク圏域災害拠点病院(広域救急)・網走厚生・遠軽厚生・北見赤十字)の相互連携 | <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症が5類になったことを踏まえ、訓練再開を予定。 |
| 3) DMAT・救護班の出動・展開及び国際活動への参加 | <ul style="list-style-type: none"> 令和6年度能登半島地震への派遣 医療救護班3班(医師3名、看護師9名、主事6名、薬剤師3名)、DMAT2クール(医師1名、看護師1名、ロジ4名)、赤十字災害医療コーディネーターチーム(スタッフ1名)、市立輪島病院支援に伴う看護師派遣(看護師5名) |

| 項 目 | 令和5年度の取組み |
|---|--|
| 4. 働きやすい職場作り、充実した教育・研修体制作りを進めます | |
| 1) 職場環境の整備・改善 | <ul style="list-style-type: none"> イントラ上に掲載された各相談窓口を「職員のため」の相談窓口として情報整理した。 外部コンサルの支援を受け、前年度に引き続き 関係部門で職場環境改善に向けた取組みを実施。 ○衛生委員会 …ストレスチェック集団分析と職員満足度調査を活用した勤務環境改善 ○リハビリ…リハ科職員のキャリアパス作成後の運用支援 ○診療放射線…人事考課制度の見直し ○ノスト防止対策委員会…外部委員の依頼 ○診療支援課…職能防止支援として、既存のキャリアパスに運動させた育成担当者への支援、3時間研修 ○人事課…ワケン予約システム試行運用 北海道支部A7研修(労務)開催支援 ○医師の時間外労働の削減、職員の有給取得推進を継続課題。 ＜医師時間外＞ R4 38:41 R5 39:09 ＜職員平均有給取得日数＞ R4 12.6日 R5 15.9日 |
| 2) 職員研修の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 院外研修への参加 研修等参加・・・延410人 学会発表・・・延148人 令和6年に北見市とエリザベス市は姉妹都市提携55周年を迎えることから、北見市では記念事業実行委員会を立ち上げ準備を始めたが、北見市からの要請により今回から当院も実行委員として参加した。 実行委員会で検討された北見市としての案を直接エリザベス市の関係者と協議するため、12月に実行委員会から4名(実行委員長、北見工大、北見市、北見日赤)で渡米し現地で行った。 その際に、トリニダス病院と今後の交流について協議し、令和6年11月に北見市の訪問団としてエリザベス市へ向い、トリニダス病院も訪問予定となった。 |
| 3) 臨床研修医、専攻医等の育成体制の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 当院専攻医採用8名(※10名採用予定だったが令和6年2月に1名国試不合格、1名年俸のため) 当院内科専門研修、総合診療の専攻医確保のため、北海道が実施する広報活動に参加 臨床研修医が北大1名(リハ科)へ2ヶ月間研修を体験する。 ・外科セミナーを5月・11月計4日開催する。 臨床研修医の受入れ実績 旭川日赤…神経精神科1ヶ月 旭川日赤…産婦人科1ヶ月 旭川日赤(たすぎがけ)…1年間 ・薬剤師採用 2名(R5.4.1正職1名、R5.5.22パート1名) ・薬学部学生への奨学金貸与実績 9名(1年2名、3年3名、4年2名、5年2名) ・看護学生への奨学金貸与実績 (看護大、旭医大、金城、天使 計96名) |
| 5. 経営基盤の安定を図り、高度かつ安全な機能を備えた病院作りを進めます | |
| 1) 健全経営の維持 | <ul style="list-style-type: none"> R5年度の決算は1億9千万円の黒字予算に対し、2億7百万円の赤字決算となった。予算では、コロナ後の患者回復を見込んでいたが入院外来ともに患者数は大きく下回り、費用についても稼働低下によるものや国の政策によるものがあつたが人件費関連の増加により、医療収支は予算を下回る結果となった。病院全体の収支についても、コロナ関連の補助金収入があつたものの本業でのマイナスが影響し今期2億7百万円の赤字決算となった。収支状況は以下のとおり。 (収入要因) ・1日当りの患者数は予算に対し入院22名の減、外来75名減となり、当初はコロナ後の回復を見込んだ予算であったが大きく減少する結果となった。DPC係数の上昇や施設基準の取得により診療単価は増加したが患者数の減少をカバーすることができず医療収入は予算に対し、3億6千万円下回った。 (支出要因) ・医療費用は稼働低下による材料費の減少、国の政策による光熱水費は減少はあつたものの、給与費、退職金費用の増加並びに委託関連費用の増加により、予算に対し、5千8百万円増加となった。 |
| 2) ICT(情報通信技術)活用・AI(人工知能)の活用拡大 | <ul style="list-style-type: none"> 電子カルテを含む医療情報システムの更新作業が完了しR6.1.1より稼働開始。 「二病院一体運営」「稼働化」をキーワードに将来を見据え大規模な業務見直しを行った。 今回の更新でAIを始めとする先進的なICTを活用する基盤は構築された為、次年度に向けてDX推進について検討を開始した。 |
| 3) 医療機器の導入 | <ul style="list-style-type: none"> IVR-CTの導入に向けて電子カルテシステムの更新に伴う運用変更と合わせて引き続き検討していく。 |
| 4) 医療安全、感染管理体制の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ＜医療安全推進室＞ ・研修会、勉強会開催及び職員参加実績 15回 延5,210名 ・年2回以上必須研修会職員参加実績 1,138名(99.7%) *サーシング・スキル ＜感染管理室＞ 【新興感染症対応等 感染対策】 ・5月日赤改正 新型コロナウイルス5類感染症へ、COVID-19感染対策本解散。 ・アウトブレイク等1件(給食関連ノロウイルス 対応期間4月15日～4月27日収束) 【厚生局通時調査対応】 ・指摘事項なし。 【診療報酬対応】 ・加2・3施設との連携10施設(新規:北見北斗、再加入:中村愛成) ・連携施設からの相談応答3件(道立北見、戸田日赤、中村愛成) ・連携施設への指導強化加算訪問ラウンド4施設(美幌国保、小林、北見北斗、道東の森) ・感染対策必須研修 職員(2回受講) 1146人/1160人 受講率 98.8% 委託職員 155人/155人 受講率100% ・10月より全診療科によるICTラウンド参加協力開始 【地域への貢献】 ・令和5年度第1回北海道感染症化学療法セミナー(千葉) ・中部産業連盟実地研修介護老人保健施設いきいき(松涛) ・北海道主催感染症対応力向上研修(松涛、高田) |
| 5) 北海道立北見病院との一体的な医療提供体制構築 | <ul style="list-style-type: none"> 相互診療応援実績 日赤→道立 68件 道立→日赤 48件 R6.1.11に両院の電子カルテシステムを更新。 2施設で患者IDを統一化し、相互連携が容易になる運用を目指す。 |
| 6. 地域に開かれた病院を目指します | |
| 1) 市民公開講座の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ○市民公開講座は新型コロナウイルス感染症の影響で実施出来なかった。 ○出前講座を9件実施。(※主催団体、テーマ、講師、参加者の順) ①TLC会道東支部、北見赤十字病院におけるがん治療について、上林副院長、14名 ②北海道柔道整復師会北見ブロック、精神科のリハビリのストレス対処基礎講習、畑中作業療法士、31名 ③斜里町生がい大学、理学療法士が本気で考えた転倒防止に有効な運動、庄司理学療法士、大橋理学療法士、85名 ④北見市立北中学校、接遇について、鈴木診療支援課長、120名 ⑤斜里国保病院、感染対策、松澤看護師長、高田看護部長、45名 ⑥斜里国保病院、ハラスメント、鈴木人事課主事、45名 ⑦斜里国保病院、認知症ケアの基本姿勢、福島看護部長、22名 ⑧明治安田生命北見北見営業所、がん予防・検診について、上林副院長、20名 ⑨TLC会道東支部、脳卒中のお話・入院とお金の話、木村脳神経外科部長、久永聖人、19名 |
| 2) ICT(情報通信技術)・マスコミによる地域住民への医療情報提供や当院の活動の周知 | <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ及び院内掲示により、当院の中長期運営方針に基づく取組の公表や病院指標、診療体制、北見日赤通信、母乳の会「たんぽぽ」、がんサロン、ほっと連携等を発信し周知。 ・北見赤十字病院・北海道立北見病院の来院者向け広報誌「ほくほく」を年4回発行している。 |
| 3) 行政等による協議会への積極参加 | <ul style="list-style-type: none"> ○北見赤十字病院・道立北見病院出前講座を20件実施(※主催団体、テーマ、参加者の順)。 ①北海道柔道整復師会、メンタルヘルスでの感情の役割、33名。 ②北海道大空高等学校、精神科リハビリテーション基礎講座、86名。 ③北海道道立高専、精神科リハビリテーション基礎講座、13名。 ④北見地区救急等支援ネットワーク、事件・事故被害者へのこころのケア、31名。 ⑤北見地区訪問看護ステーション、心臓病の予防と治療になる運動療法・生活活動について、9名 ⑥北見地区訪問看護ステーション、心臓病の予防と治療になる運動療法・生活活動について、10名 ⑦津別町役場保健福祉課、糖尿病の食事療法について、21名。 ⑧斜里町立国民健康保険病院、医療接遇について、45名 ⑨オートワーク圏域北見病院、事例から学ぶ認知症ケア学習会、22名。 ⑩北海道清別高等学校、高校生向け出前ワークショップ、40名。 ⑪北見市立北中学校、接遇のお話、142名 ⑫オートワーク圏域北見病院、医療接遇について、45名 ⑬明治安田生命保険株式会社北見営業所、がん治療で大切なことがん治療の支援、70名。 ⑭津別町役場保健福祉課、糖尿病の食事療法について、21名。 ⑮シミス・ビルライフケア、医療接遇について、7名。 ⑯北見循環器クリニック、感染対策概論、43名。 ⑰TLC会道東支部、がん診療の現状～院内がん登録のデータより～、14名。 ⑱シミス・ビルライフケア、ジェンダーバイアスを理解しよう、7名。 |
| 4) 救急法等の啓発・普及 | <ul style="list-style-type: none"> ・日本赤十字社北海道支部北見市地区、北見市救急赤十字奉仕団、当院指導員にて、連携の上、赤十字安全法講習を開催。 (当院主催分) 1.救急法 ①基礎講習:新入職員研修60名、院内職員対象40名、合計100名が受講した。 2.幼児安全法 ①支援員養成講習:1回開催、8人が合格。 ②短期講習:合計3回開催、14名が受講。 ③短期講習(出前):合計2回開催、28名が受講。 3.健康生活支援講習 ①支援員養成講習:合計1回開催、4名が受講。 ②短期講習:合計1回開催、10名が受講。 |